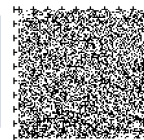


# 多様な利用者のニーズに配慮したユニバーサルデザインの トイレづくりハンドブック～ 変わります とうきょうのトイレ ひとりひとりのために ～

令和5年2月15日  
福祉保健局生活福祉部



## ハンドブックについて

目的：高齢者、障害者、乳幼児連れ、性的マイノリティなど多様なニーズを持つ全ての人が、  
ストレスなく利用できるトイレ環境を実現するため、トイレ利用の困りごとを解消する事例を  
紹介し、様々な施設での自発的な取組みを促す

対象：公共施設、公園、商業施設、鉄道駅等の各施設におけるトイレの設計・整備や管理の担当者

作成過程：当事者へのアンケート調査結果等を踏まえ、学識経験者、障害当事者、事業者等からなる検討会で作成

## ハンドブックの構成

### STEP 1 現状と課題から考えるこれからのトイレづくり (P2～)

- これまで、多様な特性を持つ人が利用できるトイレとして、様々な設備や機能が集約された、「多機能トイレ」が多く設置されてきた。
  - 「利用が集中する」、「利用しづらいと感じる人がいる」という課題
  - 介助用ベッドの利用希望、異性介助やトランスジェンダー等で男女別のトイレが使いにくい人など、これまであまり表面に出てこなかったニーズ
- 多様な利用者のニーズを理解し、トイレ空間全体でユニバーサルデザイン※を進めることが求められている
  - ※年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、はじめからできるだけ多くの人が利用可能なように都市や生活環境をデザインすること。

### STEP 2 施設や利用者の状況に応じてトイレの設備等を分散する (P6～)

#### 1. 設備を分散して設置する工夫

【事例】一般トイレに乳幼児用、オストメイト用の設備を分散

- トイレスペース内で、一般トイレへ設備を分散することで、車椅子使用者とその他の設備を必要とする人の重なりを防ぐことができる。

【事例】車椅子使用者対応トイレに介助用ベッドを設置

- おむつ交換台が使えない年齢の子供から大人まで、おむつ交換や着替え、自己導尿等に幅広く対応でき、荷物を置くこともできる。

【事例】男女共用トイレを設置

- 男女共用のスペースに少し広めのトイレがあれば、知的・発達障害者、認知症高齢者等で異性による介助・同伴が必要な人やトランスジェンダー※等で、男女別のトイレが使いにくい人なども利用しやすくなる。

※性的マイノリティのうち、出生時の戸籍や出生届の性別（出生時に割り当てられた性別）と性自認（自分の性別についての認識）が異なる人

#### 2. 施設全体で設備等を分散させる工夫

【事例】フロア内や複数階で設備等を分散

#### 3. 利用者の意見を取り入れて、より使いやすくする工夫

【事例】新設や改修の際に利用者の意見を取り入れる

### STEP 3 トイレ利用における様々な場面を想定した工夫を行う (P24～)

#### 1. より使いやすく、わかりやすくする工夫

【事例】JIS規格のピクトグラムのみで表示、一般トイレもボタンの配置等を統一

#### 2. より快適に使える工夫

【事例】音や光の刺激をコントロール

#### 3. 緊急時にも安心して使える工夫

【事例】避難所等となる施設において、災害時に支障なく利用できるようにする

#### 4. トイレを選びやすくするためのわかりやすい情報提供

【事例】ウェブサイトトイレの設備等の情報を提供

#### 5. 真に必要な人が使えるようにするための案内の工夫

【事例】利用者に適正な利用を呼びかける

